



鴻翁道話

9
4081
1



門口9
號4081
卷1

冊九
號三
函

天保甲午歲閏板

鳩翁道話

浪華書林 文海堂藏

天保甲午夏六月朔近

坐於齋中柴田氏之子偶來

訪云請餘暇閱此書且附一

言即取而覽之乃其所施錄

乃翁之語而命曰鳩翁道話

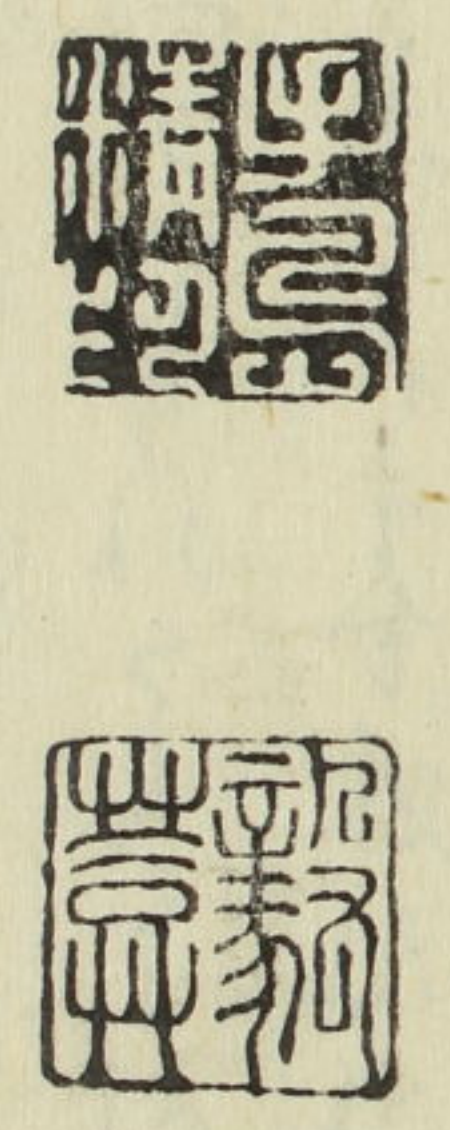
者也曰審其文言則似戲而



遺事

九氣及行
悉是孝身之實說則若^{十七}儂^カ尚
不^レ求^カ聖賢之旨^二語曰道^一在爾
而^ル求^ム諸遠事^一在^レ易而^ル求^ム諸難^一
今如翁者可^レ謂^ル於^レ能^レ從^ル其^レ適^一
且^レ易^キ教^ニ論^ル世俗者^一實^ニ有^ル勤^ク矣^一
覽者^一捨^テ其^レ言^一辭^一之^レ儂^一近^ク而^レ取^ル

意味之深長者以為修身齊
家之一助便是翁之本意矣^{ナラント}
云^レ翁^カ手^一島^一毅^一庵^一識^ス於^レ五^一樂^一舍^一
之^レ南^一窓^一



意
二

Vertical text in the right column, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

鳩翁道活を之上

男 武修園書

孟子曰。仁人心也。義人路也。舍其路而弗由。放其心而不知求。哀哉。是ハ孟子告子コト云ふコトんえ

所ナリ奉文コト云々コト申付。叔コトけ仁と申付。諸先生

つろく小ね徑コトと名コトれと申せ。ひつコトろく申せハ女中

翁コトや。子コト傳コト流コトの身コトへ入コトまコトい。とまコトとたコトとコトりつて

れコトとコトあコトーコト申コトませう。ひコトつコトろくコト申コトせ。今コト大コト路コトのコト系コトとコトらコトん

名コト秘コト書コトがコトごコトらコトんコト。今コトらコトんコトいコトハコト申コトせ。或コト時コト鞍コトるコトに

と又所の人雀の茶と製して賣り出す
 よつと肴板と今ち縁先生小出給ひやて書
 りらくれまうと肴板ふらん茶と板を
 出たがしとソデ板人かどがまきと先生を
 くらんの茶でござりませぬ。の急げらん
 ながしとこそ先生をく。く肉口と
 出入の生は使束の本ろう山姓百姓ぐり。く
 らんとあていわぬ。らんとあてて通利
 するまき美の車でとらぬとまきはぬ

たしひはらんとあてと業人功徳が
 であふれと作。いふ由は面白
 りでござりませぬ。人の名をナニカンで女中
 やるも庭の年ふをせぬ。学居活ハ識者の
 こまきまけまきと車とでござりませぬ。たぐ
 家業のからまきと味のみ。百姓や所人
 人の名あつとをかあせしと。先生の志
 でござりませぬ。はつとらして
 けいひもあつと。はつとらして

仕振らまひおのはえん基もそのまるうで。柳やなぎのかりう
 うとがしど。又また枕まくらのつれとなるたせぬやりう
 又また春はるのあづき振まひつひさる。
 志こころまは親おやのさぬと親のさぬとさらうく
 たりど。心こころ若わかりながらひらが。子ららとの有あづき
 やう。是これがになる。人のこころどごらま守まも。かやりし
 中ちゆうくおらと。糸いとのこらう乃のやうなまども。何なに
 心こころ落おくさぬの心こころがトントと。心こころのないにのた
 年とし振まひまあらと方のこころ乃の居いるしといつ

して居ゐますのどや。よそ半はんのやうふいまさららい
 てハ速すみ速すみとぞんじままとり。うらと方の親のつ
 心こころとうまららう。ままと親とはさら。とんと
 心こころ配はいとせう。誰織おとうけらう。まお後と立とせ
 うり女に房むらふ心はしひとしけらう。心こころをふらんごう。兄あ
 と悔す。世間よへ誰後ごとかけららす。心こころので飛と
 とぬぐひ。又また是こと枕とさららとうまのしや。
 心こころ尚なふた振の人い柄がらいこららまいくれども。天あまの
 接よ所ところへハ連つ中ちゆうとんとある。心のままらりませ。はく

枕草子 卷一 上

づく思ふて又思ふ。と地のふるふ生らまきでと。つこ
 方ぐごごりませぬふ。幸よつごごりひよと理乃
 かふ心と持てくましゆとい。千万金も貯く
 まぬ有ごごり半ひごごりませぬぬ。この年宛の
 まふ心と我前ぐ奉ん。と申す年。む仁と
 奉んとと人前よつごごりませぬの年宛の
 つきとと。そんなすの味すりとせうなる
 唯奉んとと宛のまふ心とと。かやめしと。ま
 りごごりませぬ今日各極の海一人く

此目小かくらつごごりませぬ。かめくもむ方のか心よ
 ととこし。も年理をこごりませぬと知まます。
 とと理扱ち。つ入まき半とつり能すゆだき
 りつとすりと。忽ち後の中がゆとやふらう
 考んく。も年理乃なん心とつりませ理をする
 中忽。んがゆらまきく心とつりませぬ。ごごりませ
 へあま。子人前人。まほごごりませぬ。ち後
 鳴。就のよるれ。考んくごごりませぬ。かやごごりませぬ
 とと月々一ツなまきとらるまごごりませぬ。各そのうげと

けせ、こゝろ根義人路也。こゝろとし義とつゝいゝを理とせぬ。す
 かりとを理とせぬ。む人交々の中におおつるが、こゝろ方相と
 交々くうらゝかつがゆ多ふ。古人義者宣也と作す。
 申す。家身とつゝいぢふ。公不情と出さぬ。うらゝい。
 婦とつゝい男婦と孝けり。夫と大切ふ。するが宣い
 いどやささりませぬ。れ。そのやうの事。ごと宣い。のが
 義でござりませぬ。を宣い。いのが人乃。れ。どや。れ。と
 古人曰道猶人路也。と。江戸へり。を。長崎へ。ゆくも。
 表へ。物。と。う。人。出。る。も。さう。う。人。ゆく。も。書。信。へ。も。

けるも、皆そましくふる。がある。り。る。と。ゆ。ぬ。と
 を根とを志す。溝へ。と。ま。り。り。れ。ど。い。ふ。ご。り
 とつげとなひ。あへ。う。ら。え。ま。す。る。と。は。い。ふ。ご。り
 人乃。と。ご。り。ま。り。う。な。い。事。と。す。る。と。な。い。ご。り
 ま。り。ぬ。あ。り。親。と。孝。妻。と。夫。不。貞。相。友。い。ふ。ご。り
 信。一。い。ふ。ご。り。も。志。と。あ。る。と。な。り。と。人。す。り。と
 る。や。ふ。ら。て。よ。ふ。ら。う。り。く。ま。い。と。親。や。な。り。せ
 り。り。ま。り。後。と。と。せ。り。人。を。恨。ん。だ。り。恨。ま。り。と
 ま。り。危。ま。り。宣。い。う。な。り。事。ど。や。危。が。な。り。と。

九義人論

六

めく肩こしと揉む按摩の秘法も此土こそあれ
 とぞいへるいふもこそ人むかしとる者つとぞ
 ゑんたのいふそのまごも娘の按摩のけのこりまご
 おろせませぬといふは先生は笑ひながらそれい
 進ずらん心ゆれちぎひとぞりませう。いんちやふり
 一とぞ。女の家のふりづけだ。先生の親なりと
 我親とそは之るが及ぶや。そは切な男は此の病
 子のときふ。あつと花むすび兼や。花むすびい
 りうのあまませぬ。お入の按摩や。とぞと此のよと

かへ。嫁のまゝ。家小親の肩こしとぞと
 ずりしと。此今抱をならんが。嫁のなるとぞり
 ます。そまのゆり。按摩の心持。おれまご。死と
 中。のろとぞりませ。とく。後。まの。心持。おれ
 要。いやといふ。まゆ。と。後。まの。まの。おれ
 と。おれ。おれ。と。心持。と。おれ。と。おれ。と。
 けり。おれ。と。おれ。と。おれ。と。おれ。と。
 抱。と。おれ。と。おれ。と。おれ。と。おれ。と。
 ぶ。おれ。と。おれ。と。おれ。と。おれ。と。

帯扱ひつる。酒白うもなんともない。唯今口と遊
 曲さき髪もがらもかまわごと。すれ髪もかま
 帯。よこり子とゆらこんで。こそさくさげ、あ
 りく、えんごうのやうなものであらうとせよ
 親の素羽とらふ。時音おまをゆきうく。くや
 ましく俄不帯一らまも。雅志つる車トや、皆
 のまぐぐいづうう。史とゆのふ割もな入。こ
 味線入ひくと。酒白い車と思ひ入つや、六ツの
 和弁のまい女らよふとらまこ味せんとだんを。

仕りこがあぬ。つと掉ぶのぐりはいつきしなを、出
 してあつてのうと。ううとてごうり秋まの
 毒もかなものでござります。ゆゆとちんしすすの
 まうらえとと乗と味せんできんこ子の親とす
 て、をいさる文流しうりする車一があらよのトや。
 まつくうとさらしい。花やうな車一か、あうす
 のんまうが虫来ます。ははらの神も作者の
 こふあ、いふうとつましつとつゝのるトや
 芝居降り揚らんやうと。とく目のつめやうが

らぐひまふりと大岡連ふなるとのてぶらうりす。
 更う三味せんを煮つて。焼入せんうらふかきうらうと
 思入さ。思のゆふろま今いづく。焼入せめさこふ
 思ひ甲かをくうらうと煮るのい。皆目のゆやうれ
 らふとゆくとや。是ぞ面白し話ごごうります。
 いふふ系ふすじ陸が急く大坂をえんおせん
 らうと居さうと。け春のいさく。難波名坊
 えんおとわうけのさくと遠まうり。西のま向う
 の明林のゆ樹を山崎へ出天と山一のが

まかりゆくと又大坂を都をおせんとおひ立と
 ういふ有る。是もゆ樹を瀬川あると川高掘山崎
 とわうけ。天と山一のかりうらう。山の巖ぞお方がか
 合まうと。まが系ふ仲るは巻なきぶめんくの志
 とくろく。板あ方がうねい。け中ふらうとい目と
 一と漸とまご中経どや。是うらふ系大坂へ
 ゆれふが。是も腰らたまのまひるまがうふおふ大
 王山の四頭系も大坂も一面うらふまはすおどや。十
 系ふ是つとまうと。岩のびとてんおとらう。是のつと

さとゆきしと。おまふお後らめく。あふらさし
 わづら。まふまふと。向ふとまつとえつして。京の陸
 かやまふのいあふらさしと。難波ふもつんささ
 京かふらさし。いぬい。ぬさし。目として。口ふらさし。ささ
 ず。さし。ゆふらさし。入。大坂の陸もめとらさし。して。
 ぬさし。ふらさし。花の教と。あふらさし。まけど。大坂
 しまさし。もらさし。ささし。の我もらさし。ささし。
 双方ふらさし。交代して。入のささし。と。遠くゆふらさし。
 こささし。ささし。のささし。ささし。ささし。ささし。ささし。

内合熱がまらさし。あふらさし。陸へひらさし。と。ささし。
 と。ささし。と。目の玉が。脊中ふらさし。はつと。あふらさし。さ
 かり。のささし。と。ささし。のささし。や。らんが。はらさし。して。
 右と。目の身おのらさし。あふらさし。あふらさし。のささし。さ
 らさし。と。ささし。のささし。ささし。ささし。ささし。ささし。さ
 或人のあふらさし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。さ
 即り。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。さ
 振。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。ささし。

家を賣つて十石買ふ所かつけの御文、二百石同
 じと云ふ。つと云作らうと書くと又十年や
 百年の貧乏をすゑつひつひつと資中、目の
 つり、桂、うら、し、く、え、す、の、舟、毎、月、大、丈、丈、を、四
 十、石、買、ふ、や、ゆ、ん、と、お、れ、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、病、で、か、り
 しく、彼、の、大、松、明、り、か、く、や、く、大、地、産、う、か、こ
 ら、ん、や、く、か、ま、め、う、深、を、の、つ、つ、さ、ま、せ、ら、さ、り、ま、す、
 け、お、れ、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、今、一、つ、作、ら、あ、れ、
 暇、に、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、ア、ノ、業、操、し、く、し、

貝、く、ま、大、丈、丈、を、手、取、り、い、貝、く、ま、と、大、丈、丈、を、蓋、が
 あ、つ、ソ、コ、テ、向、の、業、操、う、れ、と、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、と、
 じ、つ、し、中、り、メ、く、大、丈、丈、を、半、一、や、と、さ、ら、く、石、十、十、
 綱、や、籠、が、う、う、中、り、一、つ、り、コ、レ、を、え、や、お、ま、人、の、要
 害、と、大、丈、丈、を、さ、り、の、ト、や、う、ら、う、う、書、と、あ、れ、い、つ、
 さん、大、お、れ、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、う、う、と、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、
 さん、ト、や、と、之、が、業、操、が、弊、と、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、お、ま、人、方、
 ぞ、お、れ、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、う、う、と、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、
 だ、い、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、う、う、と、い、つ、か、り、ま、せ、ぬ、ゆ、ん、

このまじいせび。そをほうしてそのちや放其心おちり而不知しらす求もとめと作つくらまじいのぞござります。わ事もかぎごとわが身みへ立たえつて。
 て
 おまへの味あじもつぎ。だ、わくくしと目の
 はくがほうんござります。放心おんしんとよき心こころが
 死しであましのぞろりませぬ。身みより立ちつ
 半まの物ものあめ^{ごさ}のじや。しん^{ごさ}とま^{ごさ}でちやわつ
 今いまににたたの事ことちごりぞちあひあひ思おもふとこの
 ちとよのこ。知ち恵ゑとよのこ。合あ判はんをよもの
 かとよのこ。格かく式しきとよのこ。こまに人ひとにむす人ひとむす

まじやとわがしござらんらむ。榮さか耀えの山やま連つら中なか
 じやとうかう半はんもあまらむ。味あじがあじ
 要よごござりませぬ 体たい息そく

九条系...

[Faint bleed-through handwriting from the reverse side of the page]

鳩翁道流考之下

男 武修聞書

人有雞犬放知求之有放心而不知求學
ヒトアルキハケイケラハカニニルモトクヲラヒハウシニ
 問之道無他求其放心而已矣。是也孟子
ヒトノミチニナシナラバモトメテノミテハカニニルモトクヲラヒハウシニ
 曰夫之也。犬之也。夫之也。夫之也。夫之也。
トクニハカニニルモトクヲラヒハウシニ
 夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。
ヒトノミチニナシナラバモトメテノミテハカニニルモトクヲラヒハウシニ
 夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。
ヒトノミチニナシナラバモトメテノミテハカニニルモトクヲラヒハウシニ
 夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。夫之也。
ヒトノミチニナシナラバモトメテノミテハカニニルモトクヲラヒハウシニ

九
時、まゝひるが、あつて、一モシ、ころの二毛、あつて、
ころ、居ませあり。雛、ハ、まゝありませあり。と。た、は、ひ
つ、く、人、情、で、ご、ご、り、ま、守。あ、が、入、用、の、ご、ご、り、ま、守。
大、鶴、を、給、失、し、を、指、別、害、を、な、お、ま、せ、あ、へ、ん、の
所、の、あ、つ、と、市、て、一、名、の、且、那、様、し、や。そ、の、心、が
物、乃、た、あ、い、一、等、の、ま、る、と。親、の、い、ん、も、身、へ、つ、尺
主人、の、義、利、も、空、う、之、風、蛙、の、つ、ふ、お、し、け、と、指
小、目、ご、り、げ、ら、く、し、と、ア、ん、ハ、い、く、と、つ、く、
の、と、ご、ん、ら、ふ、つ、く、ら、い、バ、ん、ま、ご、も、み、ご、。ま、け

とも、や、め、め、も、し、も、は、り、め、行、論、の、仲、り、入
ら、ま、ら、は、い、こ、お、の、給、失、し、と、つ、ま、係、し、や。
け、く、ら、を、尋、ひ、申、う、と、と。さ、が、さ、う、と、を、か、り、ら、ご、ど。
親、が、ご、ご、い、ま、が、わ、ん、ん。夫、が、目、付、い、ん、が、ご、ご、い、。ハ
ま、情、い、わ、ら、い、奴、ど、や。お、ま、何、ハ、つ、け、め、女、ど、や、と。
む、く、ご、ご、り、目、を、け、く。あ、此、ご、ご、ら、入、つ、ご、
ん、を、あ、ご、ご、り、目、を、け、く。ナ、ン、ト、む、ら、ひ、ご、ご、り、ま、守。
ま、せ、あ、り。大、鶴、を、給、失、し、を、肝、心、の、心、ら、ご、ご、り、
ぬ、く、ご、ご、り、ま、守。さ、ご、ご、り、ま、守。ま、け、し、や、ご、ご、り、ま、守。

賢人なりとせしむるに能くさかなる人あり
るやと云ふあしなかりて下る。けいふ。一と
あしと云ふ。と学問と云ふ。も学問の始をいへんを
つらゆ。さうする。のでごり。ゆき。故。学問の道に
他求を放む。句。い。多し。作。ま。ま。し。る。而。己。の
あ。さ。く。て。ゆ。い。な。さ。の。辞。ん。と。来。し。の。介。
けい。学問のうら。い。の。ら。う。い。と。急。度。し。う。け。人
あ。い。し。の。文。文。で。ご。り。ま。手。い。ら。る。や。ま。し。の
お。集。り。歴。と。知。り。文。字。の。穿。鑿。を。う。り。す。り。と

学問といひたまはぬ。鬼角心のとどや。八千余巻乃
行倫也。諸史百家のむ。包も。皆心のゆ。情とあ
し。こ。不。書。ご。ご。り。ま。手。け。ん。を。お。う。と。い。あ。ふ。て
中。と。我。所。い。ま。う。ら。ま。手。で。ご。り。ま。手。ま。う。ら。ま。手
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
け。い。ま。ま。め。又。ま。ま。め。と。有。ぐ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。
と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。と。あ。い。ぬ。

年としの末すえある。息い子まの次ついで中ちゆうのいふよりとる。いふひとは
 振ふりかゝると。勤いんぎゆう商じやうもゆきと。元もと来きたにまじりしと
 させくおくと。いづく思おもふのり。かこでの投なげとの
 あぞの強つよと弱よわら折よとの。あしくいふ大おほ喧けん嘩か
 といひとて親おや達たちのつとら乃すなはち。親いん類るい縁えん者じやの
 物もの振ふ。打うちら振ふり思おもふ。思おもふ思おもふのべごごり
 ましと。是こゝへこも。後のちのうらうらひやうな。いんぐ
 者もので、なけとくとおまがく。う増ぞう長ちやう。いんぐ
 とぬまうとぶらう。けやうな難がた作さくり。ナント

放はなんと思おもふ。いふ年としトやごごりませぬ。勿な倫りん親いん類るい類るい
 縁えん者じや。親おや達たちの勤いんぎゆう商じやうせつと。たびく債さい保ほハきる
 といふ。いふ分ぶん一人ひとり子の年としなり。けいお勤いんぎゆう商じやう。つとら
 義ぎ經ぎやうといふ。いふ勤いんぎゆう商じやうもせど。徒つたふやう。月つきが
 といふ。かの横よこ者しやといふ。廿にじふ六ろく也や。おまじと。次つぎ身みお
 けり。後のちに。親いん類るい縁えん者じやといふ。やうな縁えん者じや
 といふ。やう中ちゆう。怖こゝろが。あさといふ。一ひと日にちお評ひやう定ていして
 親いん類るい縁えん者じやといふ。やう。親いん類るい縁えん者じやといふ。やうな縁えん者じや
 親いん類るい縁えん者じや中ちゆう。者もの方かたと義ぎ經ぎやうといふ。いふ。め手てせぬ。アノ

息よとのまゝふしてかりまると。親親ちやふ及
 んど。村中へもどんふ雑帳がかりやうきまぬ。お
 吏婦へ恨めかけまじも。面々家が大半ごとごと
 たり。我々と親ひませうれ。お苗とて山まわり。
 有女の返来りやはふといひて。子テ親連も
 せんうつこ。子由名親親我終りかへる先絶も
 中まぬ事。さぶ今夜ふお合とて下りま
 お候のと親書とあてめませう。勿論親親中
 へづまぬ連中下りしおだかぬ。お若方なり。

息親持来りて。昔よりより下りていと五
 そくしらまて。古河お若半様とゆつ。北虎をふ
 くむし。高親とておれども。おふうんを可
 がる。ゆてや人乃らぐそまを。お苗日やかぬ。お
 小ぬら。さぞかかひひまて。ござりませう。これま
 そまの放りて。起る半じやあま立うらまへす
 こと。お風もかきあさまるのふ。さう連をあま
 うらまへ。親とお苗とておまてめぬ。お
 こと。子の芳う。お苗とておまてめぬ。お

まゝとものぶや。近世徳本と人の新ふ

「こゝにはふよまのりまはする係限をあつて頼事ぬ

人ぞたうらまき。是らこそ此の大意大怒とりの

トヤ。我方でも本心がそまひのうひこまじの能

たんと。めをもとまてても此世活とたうらまきどめ異

原身猪子の私心私欲が。どういまあつまつて其用

本心よそむきとる。親の子とおりつと。不孝のり

親を思ふぬも。能く能くとのぶや。つてたのまぬ

人ぞらうまき。縮く本心よまゝつて此世うらまき

ゆせとそめの野良息子の目を村ぐ坊主と

うらまきとらまきと。おろ村乃友達が成て。そ後

ま振と幼適するし親親がと本舎するげか。何ん

が。まゝこの中うまりのと。幼適とまゝと定

めく難儀とすをらうと。おんが。大お

おげ。おとやそ親おまじうらぐ。幼適の行定款

ら川面白うが物なてまゝと全伴親父や母若の

ほえげまじ。おろとびんじうらぐ。おまじ

あゝ人らまゝとものぶやかひ。幼適うけまゝと一平とら

九
七
へおどろぐ天竺へ宿ぐせうが。惟れ島のうら
人がなぬ。この中うま。つらぐら半一のぞ。さうが
今秋評定の席へ来さんで。何ぞおまこと。お面
すりのどやと。一番團十郎とふんご。田うらけさ
又十もや七午あ乃退代と中へ宿へ入まさやう
なふのじや。そま全物く系れ大飯へおと。又せ付
やんごめさうおのりさう半一で。つらう。ドダ今秋
首尾ようふらつらやうおつらひく一登せうと。
何と仲あらの悪鬼とらと。菜えん酒の大酒とら日

くままふ波のやうふ。碓とさうら。さうがけぢぢひ
ふゆへんご。下猪頭らうらと大振さうと
つらま。我の居村へつらと時ふら。下段初夜ま
大さそ時ふら。親おらじようらまら。なん初お
の座物さうら。評定とそ居らそあうらそのお
おらさんご。たごげふたごけさうら。百あぐら
ほらめさうら。改と我の悪へつらとさうら。
さうら思案。親おらうらめら中へ。おまが親と
さんせさうら。皆悔ひく居らさうら。つらう。そま中

大勢のつげもゆきや。物子づかりい。おとつと
 一さむふりつて。居るを家よのり。彌子もめとな
 つとつらふ。コイツ一とん思案とはいふ。ううの
 一敷うらなぬの掬えたるまじり。一家のやつら
 定と立寄つて。ううさふくたきがつくそりくそと
 居る。おろくすんぞあう。そ物子小戸障子遊破
 大かたうとゆけう。物子づあう。おのうう
 けう思案。一重結とぬいど。擧げん。うう。尻
 うげく義の敷う。切らう。え掬えま入ゆつて

思案の果しく。肉ふしそくと。浮定のうら中
 ぬ戸のすさう。涙うんま。親縁者
 車座。あう。ゆん。親書。判を。おとわ
 その親書。あ親のあう。うの息ま。う
 兄とサア。うが。務員。や。親父。判を。仕や
 相国。ふ。この戸と。遊中。う。死入。と。最合
 おめ。息を。はめ。う。ぞ。う。わ。ナント。人も。お
 ろ。う。ゆ。な。ま。ら。ぬ。りの。て。い。ご。り。ま。せ。ぬ。り。あ
 の人。乃。性。の。善。なり。と。仰。ま。せ。う。ふ。慥。も。あ。ひ

こころのまをせむこと。そむか性となるに死にけり。けりや
 おとろしゝ無常なるもの。おとろしゝ。けりよき。死にぬ。盡
 み。千日道と云ふこと。なほとて。支う。つと。さう。な
 ぢ。い。ど。や。な。ひ。か。う。堅。ま。つ。と。無。人。の。む。ん。地。ご。の
 谷。ら。げ。と。い。ふ。あ。い。や。な。人。親。迦。め。氣。う。え。服。し。て
 出。依。お。ろ。と。め。き。れ。て。中。に。性。根。の。つ。と。さ。う。な
 事。と。い。な。い。が。不。思。低。い。け。の。し。む。せ。こ。り。無。心。と。い。ふ
 ぶ。と。大。者。り。の。人。な。か。り。し。り。入。是。う。う。成。佛。の
 修。む。ご。り。ま。す。○人。の。親。ら。ん。ら。や。ふ。り。も。

むとかりよる。なほ。ゆひ。わ。う。か。の。親。たり。ま。姉。の
 ま。ふ。却。南。の。親。書。が。ま。り。う。く。ら。と。母。親。も。大
 考。と。わ。げ。な。さ。と。物。と。翁。親。の。意。も。な。さ。ん。ら。と
 と。く。い。ま。ん。ら。と。傷。ひ。く。わ。う。う。や。う。そ。く。ら。と
 お。ど。お。ん。う。親。と。お。つ。と。ご。さ。と。母。親。ら。返。す
 も。お。ひ。な。う。く。無。常。の。心。と。物。う。華。付。布。ふ
 入。つ。る。官。親。と。翁。親。の。ま。入。よ。お。く。と。彼。の。ら。息。み
 した。お。戸。の。と。と。う。息。と。つ。あ。う。付。て。お。り。こ。う
 う。ら。ま。づ。く。と。付。布。の。級。と。と。と。官。親。と。う。

トウゾウ... 勘當とやりくつ... 乙舎と... 恨と... 親おと... 小聲... けり... 結布... かの親書と... 家中へ...

憐れ... 勘當... 乙舎... 定め... 勘當... この家... わが子... 結布... 乙舎... 石付...

必定らうが村を去るのくと死。吾心合かてと
いへうと。その用心の義絶であらう。かきま
業づくもつな。世間の義理も先絶への者
も親類の義絶もうらまのい。子可おどらり
その子れ尻くを合く。計く。つらく事
まら。けり。夫婦が存をとりつるの。変
て。みん。合か。つひゆせぬ。ハテ
死ありも一生。や。おひ子のあ。大道
の死。并木の上。おふたりの。て。のん。す

まの眼とんぞんせぬけい。ふ。も。ゆ。さ。も。何
へ。引。ぬ。く。下。さ。さ。も。あ。た。り。う。物。も。つ。ひ。ま。せ。ぬ。そ
子。の。名。を。う。ゆ。と。い。は。ま。さ。い。と。か。ま。し。ひ。い。ご。さ。ぬ。と。
け。い。く。大。お。う。と。あ。げ。て。男。が。さ。か。ほ。く。と。こ
みやも却。あ。せ。ぬ。と。す。く。あ。ま。も。う。ま。い。後。
なく。親。類。縁。者。の。あ。ま。り。の。う。り。ふ。ら。ま。れ。果。て。
返。す。も。せ。ど。も。が。夫。婦。の。形。を。う。ら。か。が。あ。て。居
る。ら。う。り。ナ。シ。ト。親。の。子。ふ。ゆ。い。あ。ら。ま。み。こ。ら。あ
と。四。折。あ。な。ら。う。り。ま。せ。揃。う。子。と。く。ま。く。あ。く

居る小。蔭よかり日向ふなり。人のそ〜
 といふ。義理もわづがのつ〜
 かまらざりしと。子の可き〜
 小ま〜と親の心実ふ。〜
 りのごござりませす。〜
 じやない。をらふ子と〜
 あり通り。先師名用先生の〜
 子おま〜親の心と〜
 くらつらん人の親れ子ふゆ〜

我父母もかくぞおげ〜
 けよみなき〜
 不孝その傷へ志〜
 といふもか〜
 又解とメ〜
 事〜
 りげ〜
 大抵〜

上人のふふ、わすのあつてはすふあふせ
わすけなふなごう、あつてはすふあふせ
ごうはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
けあつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
のでもない。わすあつては。親の慈念が
つてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ

その光りごとくかくしてあつてのや。それをも親乃
大慈大慧の光明で。はつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ
あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ

あつてはすふ、ひとごのの息よ、親をじ

向せぬ。さて彼自も。まぐさむをなぬ。いけ
 ら。親も。いけ。せん。か。り。さ。ま。て。い
 け。け。久。込。う。た。親。縁。者。も。い。き
 い。う。年。を。仕。出。す。と。親。連。も。い。ら。は。り
 い。う。わ。う。何。知。ぬ。息。を。表。は。う。な。備。い。出
 親。小。は。い。花。言。せん。と。一。皮。し。て。志。乃。ハ
 是。い。裏。う。か。り。と。い。う。う。と。言。端。の。ま。り
 う。い。と。この。小。な。お。い。ま。い。親。縁。い
 ち。小。い。り。き。親。連。い。う。い。我。子。の。親。と。見

て。夫婦。も。ほ。ご。ご。の。息。子。も。何。も。い。ず
 小。さ。う。う。い。う。わ。る。良。あ。う。親。縁。中。へ
 こそ。是。ま。で。勤。勤。く。と。な。う。ま。し。く。う。ま
 ども。この。ま。は。い。も。な。せ。か。ん。ど。が。七。夜。の。言
 合。と。う。け。い。う。う。と。う。年。中。う。ま。り。み。ん
 が。う。う。そ。ん。え。ま。り。何。分。ら。ま。し。て。い。う。の
 親。縁。い。う。う。な。あ。う。ま。し。う。小。う。と。七。夜
 の。勤。勤。あ。う。く。い。う。と。い。お。う。と。い。か
 中。う。ゆ。い。う。う。二十。日。の。日。の。い。う。う。性。根。の

九代新編

五

わしあまにうざい。時節あつたこと。一と
 甲からのごときぬ。トフツ四半入りの心おなり
 親達が二十日日迄といふところまでゆく。心
 魂とかなんか下した。何おならぬ顔と見
 たりつけく難い。けしに親中の中親達がなほ
 よいとそふ。その所あけくあつとくまじ。拍
 子のかのおろく。けし自子の一とふ。あまきすいと一は
 おととそりへ。今夜のあつ待て中りもさしと
 況をす。親達の本願をまじくくく入御書

せぬんゆとせら一書とす。けし
 かくてわくろく。親もあまきとあつた
 けしよろく。中書と云けく。今夜の伴定いやこ
 ゆし。あまきから彼身子どのけしれくもみす振
 く者りみん。なり二親おはく。方ありとぬ。まふ
 小児の父母と集り入ぐ。あまきとの悪りいあ
 こともなく。清きせま。けし年一をらふ。知れ
 かたう。なり。年とあらふ。市地頭。板の
 心年ふ。つと。けし。月とぬ。大庄屋。板と

かろ息いしほ子こ小こ御おん付つししままははいいのの心こころのの心こころのの心こころ
孝うやまつけけのの志こころざしをを推おし進すすめめるるはは推おし進すすめめるるはは推おし進すすめめるる
三年さんねんのの志こころざしをを推おし進すすめめるるはは推おし進すすめめるる
よよとといいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふ
若わかりりししててくくららるるモモレレをを付つけけししててのの心こころのの心こころ
いいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふ
今いまのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころ
今いまのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころ

ススリリヤヤおおももとと佛ぶつ小こししててくくららるるはは推おし進すすめめるる
のの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころのの心こころ
ととああららままととややああららままととややああららままととややああららまま
いいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふ
未いま來きたももししてていいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふ
けけくくももししてていいふふははいいふふははいいふふははいいふふははいいふふ
極ごく楽らく親おやのの若わかきき子こににああららままととややああららままととややああららまま
子こ若わかきき子こににああららままととややああららままととややああららままととややああららまま
一いち旦たん若わかきき子こににああららままととややああららままととややああららまま

のふれもたう。親ふんつひをけり。親と
 けをもさりの不若もけり。理とまれまづく。
 毛日とも今らうらうらとなく。我れも
 立ふ所を者けり。まじら親の極ハ七日極
 来らうらう。入まうらう。まじら親の極
 の不れ。けり。まじら親の極ハ七日極
 獄らうらう。地獄極来らうらう。まじら
 うらうらう。まじら親の極ハ七日極
 友とて致んとり。まじら親の極ハ七日極

学問の末しや。極まるとは。明の極なり。
 中ませう下座

